

身延山大学 教育方針について

身延山大学 建学の精神

日蓮聖人の立正安国の精神に則り、健全なる社会人として、広い視野に立った専門教育を施し、学術の理論及び応用を研究して、社会のために身を以て尽くすことの出来る人間の養成を目的とする。

「立正安国」の精神とは

「立正安国」とは、正しい教えによって、人々を安穩にして、平和な世界を建設することです。

鎌倉時代には、地震・大雨・洪水・台風などの災害が連続して発生していました。被害にあった民衆は、けがをしたり、飢饉や疫病の発生によって命を失う者も多くあり、悲惨なありさまでした。

仏教者として、この惨状に心を痛めた日蓮聖人は、なんとか民衆の苦しみをやわらげようと思慮をかさねて、仏教の聖典を深く検討しました。そして、天変地異や社会不安が続くのは、人々が正しい教えに背いて、まちがった思想を信仰しているためであるという結論に達しました。それをまとめたのが『立正安国論』なのです。

その『立正安国論』の中で日蓮聖人は『法華経』が最もすばらしい経典であることを証明しています。今日のような乱れた社会にあっても『法華経』こそが人々の精神的支柱となるべきことを明らかにしています。

したがって「立正安国」の「精神」とは、『法華経』を信仰し、人々の心が正しい方向に導かれることによって、平和な世界を実現することを目指すことなのです。

そして、この精神を現代に生かすためには、正しい教えを規範としながら自己を磨き、永遠なる生命の尊厳を守り、奉仕の心によって社会に貢献するように努めることが大切なのです。

本学では、こうした精神を踏まえて教育をおこなって行きます。

『先生が最も近い存在である教育環境』

本学は、身延山が日蓮聖人自ら教えを説いた場であるという由来から知られるように、教える者と教わる者との間に、師弟関係と呼ぶにふさわしい緊密な結びつきがあり、この関係をマンツーマンに近い形のパートナーシップ教育として現代に生かしています。高度な専門性と幅広い視野を獲得し、社会に貢献する人材の育成を図るうえで心を通わすパートナーシップはその基本となります。研究室をオープンドアとし、オフィスアワーでは、学生たちが気軽に教授陣を訪ねて歓談したり、時には勉強のこと、将来のことなど親身なアドバイスを受けたりもします。こうした少人数による教育はときには、学生にとって厳しいものとなることもあります。しかしながら、厳しさの中にもアットホームというべき安らぎがあり、学生には貴重な体験になるでしょう。また、本学は僧風教育を基本としていますが、仏教の持つ普遍的哲学性をより発展させ、社会に対する奉仕・貢献、見識・知恵、実践を重んじています。

身延山大学学則 第1章 総則

第1条 本学は、教育基本法及び学校教育法の定めるところに従い、日蓮聖人の立正安国の精神に則り、健全なる社会人として、広い視野に立った専門教育を施し、学術の理論及び応用を教授研究して、社会のために身を以て尽くすことの出来る人間の養成を目的とする。

2 前項を達成するための教育目的は次のとおりとする。

- (1) 健全なる社会人の養成
- (2) 学術の理論と応用を身に付け、広い視野を持つ人材の養成
- (3) 社会のために身をもって尽くせる人材の養成

3 本学は、教育研究の向上をはかり、前項の目的を達成するために自己点検・評価を行う。これに関する事項は別に定める。

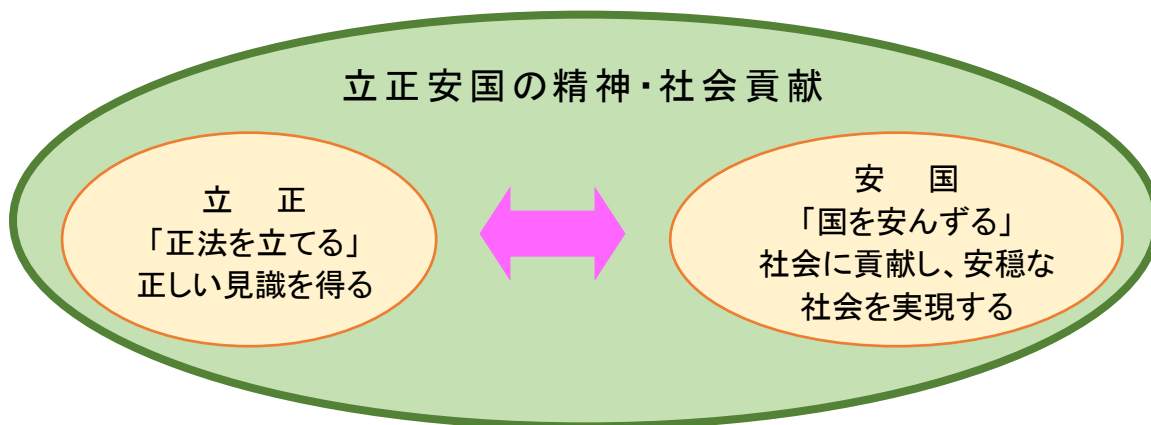
4 本学は、教育研究活動等の状況について、広く周知を図ることができる方法によって、積極的に情報を提供するものとする。

本学の教育方針

1 はじめに

450年の歴史を持つ本学は創立以来、僧道教育、つまり僧侶を養成するための教育を中心に行ってきました。現在では僧侶養成だけでなく、鎌倉時代の偉大な宗教者である日蓮聖人の著書『立正安国論』にて述べられる「立正安国」の「精神」を重視し、広く健全なる社会人として、巨視的観点に立った専門教育、学術の理論及び応用を教授することを目的としています。

この教育の中において重要な点は先の「立正安国」を現代的にどう捉えるかにあります。この点について明確にしていきますと下図のようになります。



つまり、正しい見識を持ち、社会に貢献できる人間養成教育を目指します。単に僧侶養成に主眼をおいた宗教教育だけでなく、現代社会においてその身を以って尽くすことのできる社会人を養成することに主眼をおいているのです。

『諸法実相鈔』のころ

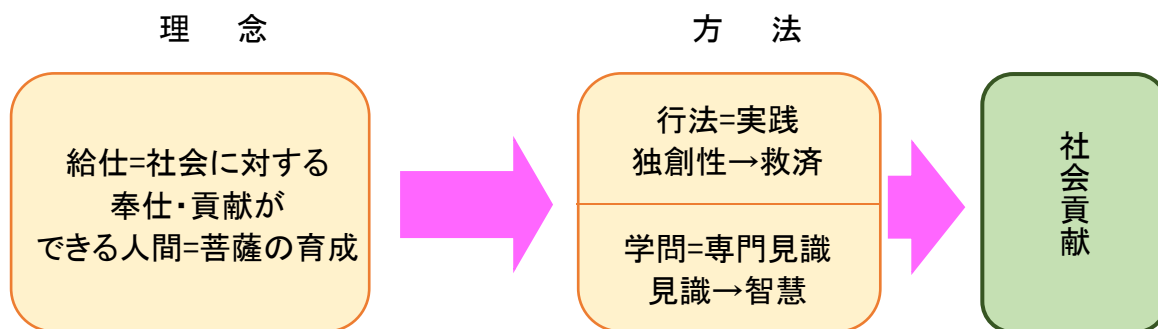
一閻浮提第一の御本尊を信じさせ給へ。
あひかまへて、あひかまへて、信心つよく候て
三仏の守護をかうむらせ給べし。
行学の二道をはげみ候べし。
行学たへなば仏法はあるべからず。
我もいたし人をも教化候へ。
行学は信心よりをこるべく候。
力あらば一文一句なりともかたらせ給べし。（昭和定本 728～729頁）

『諸法実相鈔』は日蓮聖人が流罪地の佐渡一谷で法華経の哲理と宗教者としての自覚についてのべた書です。日蓮聖人は一生懸命に信じる心を懐いて、お釈迦様のご守護がいただけるように努めなさいと呼びかけています。

すなわち、行(実践)、と学(学問)の二道に励むべきことを述べるのです。行と学をおこたれば、お釈迦様の教えはすたれてしまうでしょう。まず、自分でも努力するのはもちろんですが、他の人をも教え導くことが大切なのです。行と学の二道は信じる心からおこるのですから、たとえ一言であつても人に説いて聞かせるよう努力すべきなのです。

2、教育の三本柱・・・「給仕」・「行学二道」と「社会貢献」

では、そうした社会人を養成するためには何が必要かを考えると、「給仕」・「行学二道」と「社会貢献」という三つの柱が重要になります。これらの意味内容と関係を図示しますと下図のようになります。



(1) 『理念』 社会に対する奉仕・貢献・・・給仕＝菩薩の育成

「給仕」は余り聞き慣れない言葉かも知れませんが、英語で表現すると「サービス」というなじみ深い言葉になります。「サービス」とは、人の役に立つこと・奉公・奉仕などといった意味で、広くは「社会に対し貢献・奉仕すること」です。「社会のために身をもって尽くす」ことを「理念」として捉え、こうした意味での「給仕」ができる人間育成が本学の教育理念です。『法華経』の第20章において「常不軽」という菩薩が登場します。この方は全ての人々に対し礼拝し続けた方で、「みなさんは、いずれも仏さまの子として、平等にかけがえのない尊さをお持ちになっていらっしゃいます」とわけへだてなく合掌をしました。この常不軽菩薩に範をとり、「給仕」するためには他者の痛み・苦しみを自らの痛みとして捉えられることのできる姿勢、他者に対し等しく尊敬の念を抱くことのできる姿勢こそが重要であり、この人間像こそが仏教の言葉でいう「菩薩」に他ならないのです。

(2) 『方法』 行法(救済)、学問(智慧)・・・行学二道

本学が掲げる「理念」を実現させるために求められるのが「行学二道」、つまり「行法」と「学問」であります。「行法」というと僧侶の厳しい修行と捉えがちですが、「実践」と捉えるならばどうでしょう。つまり「行法」とは僧侶や仏師、福祉従事者、一般社会人として他者の身心を救済する、という本学の「理念」を実践していくことになるのです。こうした実践には「学問」によって獲得した智慧が必要となります。「智慧」とは、ただやみくもに知識を集積したものではなく、獲得した専門知識を活かし、社会に対して、また他者に対して自分の見識を持つことから生まれるのです。つまり積極的に獲得した「学問」に基づき、それに裏打ちされた独創性にあふれた「行法」を構築していくことが「行学二道(社会貢献)」なのです。

(3) 本学における人間養成の精神・・・社会貢献

仏教では「願生」という言葉があります。人は果たすべき役割を担うために、この世に願って生まれてくるという意味です。本来、人にはそれぞれの役割があります。本学では学生の個性にあわせた社会貢献の方法・役割を身につけさせていきます。人は、現代社会において手に手をとって社会に貢献し、安穏な社会を実現させていかなければなりません。そのためには皆さんが日々の「学問」を通し、培った見識に基づき、「実践」の対象・方法を選びとり練り上げていくことが必要なのです。

学部・学科・専攻の名称及び教育研究上の目的

1 学部・学科・専攻の名称

身延山大学仏教学部仏教学科 【定員30名】 日蓮学専攻 文学・芸術専攻 福祉学専攻

2 アドミッションポリシー(本学が求める学生像)

(1) 仏教学科

- ① 好奇心を持ち、さらなる探求心を培おうと思う人
- ② 見識を深め、自己を向上させようとする人
- ③ 一人一人の個性を尊重し、相手の視点に立つことができる人
- ④ 主体的、かつ柔軟に思考することができる人

(2) 日蓮学専攻

- ① 僧侶として実践の場で活躍したい人
- ② 仏教の教えを学び、社会に貢献したい人
- ③ 宗教界の指導者を目指す人

(3) 文学・芸術専攻

- ① 文学・歴史・美術が好きで、文学・仏教美術を学びたい人。
- ② アジアの仏教に関心があり、仏教のルーツを探ってみたい人。
- ③ 博物館や社会教育に関する知識を身につけたい人。

(4) 福祉学専攻

- ① 人を敬い、やさしい心をもった人
- ② 将来、福祉の分野で活躍したいと思っている人
- ③ からだを動かし、五感をはたらかせて考えようとする人

3 カリキュラムポリシー(教育課程の編成方針)

- ① 身延山大学仏教学部仏教学科では、建学の精神「立正安国」(教育理念)に基づき、高い専門性をもった人財を養成します。
- ② 仏教学科に専門課程として日蓮学専攻、文学・芸術専攻、福祉学専攻の3専攻を設置し、以下のような方針に基づいて教育課程(カリキュラム)を編成しています。

(1) 仏教学科

- ① 仏教の持つ普遍的哲学性をより発展させ、社会に対する奉仕、実践・見識、社会貢献を重んじる人財を育成するために、教養基礎科目と専門課程科目を開設します。
- ② 教養基礎科目は専門課程科目を幅広く補完し、問題解決に向けた基礎的な教養を学びます。

(2) 日蓮学専攻

- ① インド、中国、日本の仏教思想や仏教史を学びます。
- ② 日蓮聖人の行動と思想を中心に、法華思想や日蓮教学、日蓮教団史を学びます。
- ③ 仏教を応用し、社会的課題解決ができる方法を実践的に学びます。

(3) 文学・芸術専攻

- ① 現代的な仏教学を基礎とし、文学、歴史、仏教彫刻、仏教絵画、仏教音楽を学びます。
- ② 博物館や寺院が所有する資料の収集・整理、調査・研究、展示・保存の方法を学びます。
- ③ 文学・芸術分野のファシリテーターとして、企画力や交渉力を実践的に学びます。

(4) 福祉学専攻

- ① 乳幼児から高齢者まで、多様な領域の福祉に対応できる理論を体系的に学びます。
- ② 高齢者や障がい者の生活上の課題を解決できるように支援する具体的方法を実践的に学びます。
- ③ 子どもを取り巻く生活上の課題を解決できるように支援する具体的方法を実践的に学びます。

4 ディプロマポリシー(学位授与に関する方針)

身延山大学仏教学部仏教学科で以下のような力を身につけ、かつ所定の単位を修得した学生に学位を授与します。

(1) 仏教学科

- ① 各専攻における講義形式学習、演習形式学習、実践形式学習を良く修め、現代社会における多様な課題に対して、学修した知識の活用能力、批判的・論理的思考力、課題探求力、問題解決力、表現力、コミュニケーション力などの総合力を用いて、発見、分析、解決する力を身につけた人。

(2) 日蓮学専攻

- ① 仏教学・仏教史・日蓮教学・日蓮教団史の専門知識を学修し、仏教者として総合的・多角的な知識を身につけた人。
- ② 実践形式科目を学修し、日蓮宗僧侶として布教現場に即応できる力を身につけた人。

(3) 文学・芸術専攻

- ① 現代的な仏教学に基づき、伝統的な仏教に係る文学や芸術を中心とする「広義の仏教学」を身につけた人。
- ② 文学、仏教彫刻・修復、博物館学を修め、芸術の発展に寄与できる総合力を身につけた人。

(4) 福祉学専攻

- ① 社会福祉や法制度の意義を理解し、人権尊重の立場に立って、利用者の全体を通じた支援ができる力を身につけた人。
- ② 地域福祉の諸問題を発見し、協働して解決できる力を身につけた人。

5 取得可能な資格と免許

社会福祉士国家試験受験資格、博物館学芸員、社会教育主事任用資格(社会教育士)、社会福祉主事日蓮宗僧階(権僧都・権大講師)、介護福祉士実務者研修、その他